

○議長（小林哲雄）

日程第5 議案第40号 平成26年度開成町一般会計補正予算（第6号）について、を議題といたします。予算書の説明を順次担当課長に求めます。

財務課長。

○財務課長（田中栄之）

それでは、議案を朗読いたします。

議案第40号 平成26年度開成町一般会計補正予算（第6号）。

平成26年度開成町の一般会計補正予算（第6号）は、次に定めるところによる。

歳入歳出予算の補正。第1条、既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ3,061万8,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ50億4,188万7,000円とする。

第2項、歳入歳出の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表 歳入歳出予算補正」による。

繰越明許費。第2条、地方自治法第213条の規定により、翌年度に繰り越して使用することのできる経費は、「第2表 繰越明許費」による。

平成27年3月24日提出、開成町長、府川裕一。

次のページをお開きください。第1表、歳入歳出予算補正です。歳入、13款国庫支出金、右のページ、歳出、2款総務費から6款商工費の全3款につきまして、3,061万8,000円を増額補正するものでございます。

次のページをお開きください。第2表、繰越明許費です。こちらは平成26年度補正予算第1号に盛り込まれました、地域活性化地域住民生活等緊急支援交付金を活用して実施します各事業について、翌年度に繰り越すものでございます。

2款総務費、1項総務管理費、総合戦略策定事業費、800万円、同じく定住プロモーション推進事業費、827万6,000円、3款民生費、2項児童福祉費、子育て環境充実事業費、60万1,000円、6款商工費、1項商工費、プレミアム付商品券発行事業費、1,374万1,000円、合計で3,061万8,000円となります。

それでは、補正予算の詳細を歳入歳出予算事項別明細書により説明をいたします。

10ページ、11ページをお願いいたします。

○企画政策課長（亀井知之）

2、歳入、13款国庫支出金、2項国庫補助金、6目総務費国庫補助金、説明欄1、地域消費喚起・生活支援型交付金、1,374万1,000円。国の平成26年度補正予算におきまして、地方への好循環拡大に向けた緊急経済対策の着実な実施を図ることを目的に設けられました、地域活性化地域住民生活等緊急支援交付金のうち、地域における消費喚起や、これに直接効果を有する生活支援を推進するための事業を実施するための交付金でございます。具体的には、プレミアム付商品券の発行に充当する予定でございます。

2、地方創生先行型交付金、1,688万7,000円は、町・人・仕事創生法

に規定された地方版総合戦略の策定や、この戦略に位置付けられる見込みの事業を先行して行うための交付金でございます。両交付金ともに全額27年度に繰り越して執行いたします。

12ページ、13ページをお開きください。3、歳出、2款総務費、1項総務管理費、5目企画費、説明欄1、総合戦略策定事業費、800万円でございます。歳入でご説明しました地方版総合戦略を策定するための外部有識者による検討会に係る報償費や、人口動向の分析、意識調査等を行うための委託料でございます。

2の定住プロモーション推進事業費、827万6,000円は、開成町の魅力を発信するためのプロモーションブックの作成や、定住プロモーション活動を行うための経費のほか、南部地区のオープニングイベントの開催に係る負担金を計上しております。オープニングイベントにつきましては、27年度当初予算に計上されている経費を移し替えて執行いたします。

○福祉課長（遠藤伸一）

3、民生費、2項児童福祉費、1目児童福祉総務費、説明欄、子育て環境充実事業費でございます。これにつきましては、今回の交付金に合致するというふうなことで、当初予算に実は入れてありますけれども、ここにおいて、子育て環境充実事業費としてプレイパークの実施の予算、これが報償費の該当になります。子育てガイドブックの発行、これが印刷製本の関係になります。それを計上するものでございます。

○産業振興課長（井上 新）

6款商工費、1項商工費、2目商工振興費、説明欄で、プレミアム付商品券発行事業費1,374万1,000円でございます。こちらは歳入のほうでもございましたけれども、地域消費喚起・生活支援型交付金を活用いたしまして、1市4町の南足柄市、大井町、松田町、山北町及び開成町で交付金を活用して、広域で利用できるプレミアム付商品券を発行するものでございます。

南足柄市商工会、足柄上商工会、及び山北町商工会と連携いたしまして、消費喚起を図るとともに、地域の商工振興につながる取り組み等をするものでございます。

プレミアム付商品券のプレミアム率ですけれども、こちらは20%とする予定でございます。そして、商品券の発売開始は6月を予定しまして、ボーナス商戦、こちらのほうを予定し、利用期間は5カ月程度と考えています。

以上です。

○議長（小林哲雄）

説明が終わりましたので、質疑を行います。質疑をどうぞ。

7番、茅沼隆文議員。

○7番（茅沼隆文）

7番の茅沼です。このプレミアム付商品券の件について、お伺いします。

500円券と1,000円券の束で発行するのだろうと思うんですけど、これは一千三百何十万ですけど、仮の話ですけど、私が1,000万を出して買っ

てもいいのですか。

○議長（小林哲雄）

産業振興課長。

○産業振興課長（井上 新）

茅沼議員さんのご質問にお答えしますけれども、お一人当たり幾らとか、1世帯当たり幾らであったり、そういったところは、現在、1市4町で検討している最中でございますけれども、一人で際限なくという形にはならない予定でございます。

○議長（小林哲雄）

茅沼議員。

○7番（茅沼隆文）

7番、茅沼です。そのことをお聞きしたかったんですけど、なるべく早く基準を決めて、こういうふうなメリットがあるものは万人に公平に行き渡るように施策を展開しないと、不公平感が出てしまうので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。これはいつごろ決められるのですか。

○議長（小林哲雄）

企画政策課長。

○企画政策課長（亀井知之）

今現在、商工会と最終的な詰めをしておりますので、近々ご公表できると思ひます。

○議長（小林哲雄）

茅沼議員。

○7番（茅沼隆文）

わかりました。そうしたら、それは住民に漏れのないうに周知徹底を図っていただきたいと思ひます。

以上です。

○議長（小林哲雄）

1番、菊川敬人議員。

○1番（菊川敬人）

1番、菊川です。13ページの説明欄2の定住プロモーション推進事業費が82万6,000円です。それぞれ消耗品とか、印刷製本費とか、ずっとあるわけですが、定住プロモーションということは、南部のほうの定住に関することかなと思ひますが、もう少しどういう形のものか、内容についてご説明願ひたいと思ひます。いろいろな項目が入っておりますので、例えば、パソコン購入だとか、プリンター購入とか、タブレットの端末とか、いっぱいありますので少し内容についてご説明願ひたいと思ひます。

○議長（小林哲雄）

企画政策課長。

○企画政策課長（亀井知之）

それでは、お答えいたします。南部中心の新しい街オープンということにあわせて、定住プロモーションを行うものでございます。具体的に申し上げますと、例えば、消耗品の関係ですと、キャンペーン用の販促グッズ、このようなものを購入したいと思っております。

また、印刷製本の関係ですと、プロモーションブック、例えば、町の写真でありますとか、キャッチコピーとか、そういうものを組み合わせたものでございます。これは宣伝用でございますが、そのようなものを年に3回ぐらい出していきたいと。

また、鉄道広告用のポスターでありますとか、キャンペーン用のパネルの印刷代がここに入ってきております。また、広告料は、タウンニュースとコミュニティ紙の広告掲載料、あるいは鉄道広告等を想定してございます。

それとグラフィックデザインソフトの使用料でありますとか、パソコン、プリンターの購入でございますが、今年も「田舎モダン」というようなロゴをつくったりしました。これを今のところは業者さんを含めて、そちらにつくってもらっているわけでございますけれども、2年間ぐらい想定しています。その後は、職員のほうでそれを展開していかなければなりません。ですから、それを活用するために、そのデザインがちゃんと読み込めるような、フォントが変わって来たりしますと使えなくなりますので、それに対応できるようなパソコンでありますとか、あるいはフォント、プリンター等の購入を考えているところでございます。

また、タブレットでございますが、作成した映像は、この間、60周年の記念式典でもご覧いただきましたけれども、それを手に持って見ていただくような形を考えていると。

それとデザインバックパネルでございますが、例えば、町で何か発表したり、そういうときに、よく後ろのほうに開成町とかデザインをしているパネルがございます。そのようなものもあればきれいだということで、マスコミのほうでも、ぜひそういうのがあったほうが良いというお話も受けましたので、そのようなものも作成したいとそのようなことを考えているところでございます。

○議長（小林哲雄）

よろしいですか。7番、茅沼隆文議員。

○7番（茅沼隆文）

私ばかり伺って、恐縮ですけれど。この総合戦略策定事業費、定住プロモーション云々、これはいずれも先般発表いただいた町のブランディング戦略に密接に結びついているような気がするんですけど、今、いろいろと津々浦々ご説明いただきましたけれど、統一したコンセプトで、ブランド戦略をしっかりと打ち出していただきたいと要望しておきたいと思うんですが、その辺との兼ね合いをどういうふうに考えていらっしゃるか、お聞かせください。

○議長（小林哲雄）

企画政策課長。

○企画政策課長（亀井知之）

お答えいたします。今、議員がおっしゃられたように、当然、60周年ということ、新しい町も生まれるということを意識して、このような交付金を活用させていただいているというところはあります。

ただ、交付金をいただいておりますけれども、正直に申し上げて、来年度以降、どのような形で国からまた交付金がかかるかわかりません。ですから、3年を見据えて交付金の活用を考えていくということは、今のところ難しいということもありまして、ちょうど南部のオープニング、それと60周年にあわせて、ブランディングの一画としてこれを使わせていただくというふうに判断をさせていただいたところでございます。

それと、最初の総合戦略の策定につきましては、これはちょっと定住プロモーションとはまた別の話になりまして、人口減に対応して、国のほうでこれを作成して、今後、町の運営を図っていきなさいというような指導があった中で、総合計画のローリングもありますので、これとあわせて、開成町は今、人口が伸びていますけれども、これも永遠ではないということもありますので、長期間にわたって、どのように発展させるべきなのか。若手の職員で考えていただいた上で進めていきたいと、そのように思っているところでございます。

○議長（小林哲雄）

2番、高橋久志議員。

○2番（高橋久志）

今回の国庫補助、10ページにおいて、補助金を受けて、繰り越して事業を行うということには理解をします。

そこで13ページの児童福祉費の関係で、子育て環境充実事業費で、印刷製本の話で、ガイドブックという説明がありましたけれども、これはどういう形で活用していくのか。それとあわせて、いつごろ、これらのガイドブックを作成していくのか。もし検討されているようでしたら、答弁をいただきたい。

○議長（小林哲雄）

福祉課長。

○福祉課長（遠藤伸一）

ご説明をさせていただきます。この事業については、当初予算で既に計上してあるものと同じ考え方で載せてございます。今のご質問のガイドブックは、子育てガイドブックというような形で、大きさとしてはA4の半分、A5の形で、子育て情報も、町のことも含めて町内の中の商店とか、子どもに関係ある、そのようなものを網羅してつくっていくということで、上半期中にはできるように調整を図っていくというふうに考えております。

○議長（小林哲雄）

ほかに質疑ございますか。

（「なし」という者多数）

○議長（小林哲雄）

ないようですので、続いて討論を行います。討論のある方いらっしゃいますか。

(「なし」という者多数)

○議長(小林哲雄)

討論はないようですので、採決を行います。

議案第40号 平成26年度開成町一般会計補正予算(第6号)について、原案に賛成の方の起立を求めます。

(起立全員)

○議長(小林哲雄)

お座りください。起立全員によって、可決いたしました。